

1.2023年度 事業所方針

～『なりたい自分』を力に～

■『“じぶん”らしくはたらく』を作っていこう！

・障害特性や年齢に配慮しつつ、「私もやりたい」「私にもできる」「私もできた」を実感できる分かりやすさを進めます。「はたらく」を軸に、それぞれのメンバーに合わせた日課を整え、個々の安心・安定した生活が送れるように進めます。

■『みんなと一緒！』を大切にじぶんなりの“つながり合う”集団づくりをめざそう！

・「みんなの中の自分」を意識できる活動・とりくみを大切にしてきた
・分かりにくさに配慮した環境づくりや苦手も含めたそれぞれの集団参加の場を作ります。

■一人一人の『生活・健康』を考えよう！

・健康に生活できる環境づくり（新型コロナ感染予防）
・本人を支える家族の状況・実態にも目を向けて、連携を密にしていきます。
・居宅生活支援部・相談支援とも連携しメンバーの実態を共有しネットワーク支援を進めます。

■『チーム2かめ』みんなで支えよう～質の高い職員集団を目指して～

・職員としての知識がひろがる学習をします。
・管理職・主任・正規職員5名の会議を柱に、各部署との連携を密にします。
・月一回の職員会議の充実を目指します。

■ビジョン2025を具体化していく為に

・第二メンバーにも大きくかかわる「新生活介護事業所」と「第二の老朽化対策」を進めます。

2.利用者・職員状況

・利用者 : 33名/定員35名 2023/4/1時点

(2023年度、新規利用者なし)(2023年度 11月末1名退所) *2024年度:32名

*併用利用:12人

(高齢者施設:2人 平日ぼればれ:5人 土曜ぼればれ:4名 花ノ木:1人 こひつじ:1人)

・職員:17人~18人(月・金:看護師) *年度途中、12月に1名:退職(正規職員)

*2024年1月~4月:1名傷病休暇(厨房職員)

3.2023年度年間実践内容と成果について

メンバー支援について

・『自分らしく働く』…

障害の重い人たちにとってのその歩みはとりわけゆっくりです。そして、その人にとって安心で“自分の居場所”と思える場所も十人十色。構造的に環境を整えること、集団的に支援をする中での支援の統一事項など、環境整備と言ってもその整備は多岐にわたります。

○メンバーに合わせた作業内容や量、やってほしいことに挑戦、頑張りを認め合おう！

・リサイクル事業を中心とした作業をそれぞれのメンバーの障害特性に合わせ、その人のペースで行って来ました。かごに入っているアルミ缶をやりきって終わる人、昨日は調子が良くいつ

ばいできて、今日はあまり気持ちが乗らない人もいます。近くにいる職員に「見て」「こんなにがんばったで」と自分の頑張っているところを見てほしく、たくさん声をかけてきます。声をかけて来るメンバー以外にも、職員は丁寧に「すごいね」「頑張ってるね」「さすが！」と声をかけることで、たくさん笑顔がでて、また頑張ろうと思えるように働き掛けています。

- ・お給料を持って、買い物や食事をするという取り組みも継続的に行っています。作業所2年目を迎えたSFさんも取り組みを楽しみにしている一人です。お給料をもらおうと「取り組み？」「買い物？」と大好きなミルクティーを買ったり、買い物を楽しみにしています。取り組みに気になり、不安になってしまうこともあります。家族からも「お仕事頑張っておいで！」といわれ取り組みを楽しみに仕事に頑張っています。また取り組みに出掛けると必ず家族へのお土産を買うメンバーもあり、頑張った仕事でお給料をもらい、家族を喜ばせる、じぶんなりの家族や社会とのつながり、社会経験を増やすことができました。
- ・コロナが5類になったことで、いろいろなイベントも再開されました。イベントは自閉症のメンバーにとっては、いつもと違う、久しぶりや初めてのことで不安になります。しかし、いつもの仕事の一つを予定の中に入れることや日課に見通しをつくることで、安心して参加をする姿も増えてきました。第二かめおか作業所開所28年の月日の中で一定年齢を重ねてきたメンバーの作業所生活は『自分らしく働く』が成熟しつつあります。自分の居場所が安定することに、どれほど安心とその場からの挑戦をかさねられるか？利用者の姿が物語ります。その人に合った働く環境整備が一人ひとりの自信や手応えにつながっていることは明らかです。『こうなりたいんだけど…！』の思いに寄り添い、“じぶん”らしく働きたいを引き続き大きくふくらませていきたいと考えます。

・『みんなと一緒！』を大切にじぶんなりの“つながり合う”集団づくりをめざそう！

○形は違ってもみんなと一緒に参加したハートフェスタ・合同新年会

- ・2023年度も、『みんなと一緒』がさらに大きく膨らんだ取り組みがありました。ハートフェスタの出し物では、「ジャンボリーミッキー」を昼休みに練習してきました。IYさんはジャンボリーミッキーの曲が気に入ったようで、練習のための曲が流れると思いきりジャンプをしたり、腕を大きく振ったりと泣いていても曲がかかるとみんなのなかにもどんどん入っていきます。4年ぶりのハートフェスタをみんなで開催し、新しいメンバーにとってどこまで楽しめるのか？どんな体制ならみんなが楽しめるのか？検討を重ねてきました。ステージ発表のみ参加、少し会場で楽しむ参加、1日通して会場を楽しむ参加、会場に行くことが難しいだろう作業所でいつものルーティンのほうが安心するだろうという参加方法。実際にはいろんな課題もありましたが、それぞれ、個々の実態合わせた参加方法でも、みんなを意識しながら一緒に楽しむことができました。ハートフェスタを経験し、ガレリアでの合同新年会ではIYさんの大好きなジャンボリーミッキーの時にみんなと踊れたら・と一つ挑戦をしてみよう！ガレリアへ。会場内に入っては踊る子はできませんでしたが、音楽の聞こえる外の場所で一緒になって踊ることができました。集まりの場には入れなくても、自分なりの“つながり合う”で『みんなと一緒』を感じることもできた職員は思っています。

イベントや行事は日常の中での大きな変化です。時としてしんどさを募らせることもあります。変化を如何に本人たちの楽しみや生活を彩る経験の一步となるかは、職員に問われています。引き続き集団の中で自分らしく過ごす、個別の存在が際立てる支援を検討して行きます。

生活・健康のとりくみ

○作業所だけではどうにもならない！いろいろな事業所とつながりが必要！

- ・障害実態が多様化する第二かめおか作業所では、一事業所だけでライフステージを支えることが難しくなっているのは事実です。利用者数は33名、11月～メンバー退所に伴い32名（定員35名：男性17名・女性15名）です。20歳～80歳までと年齢の幅は広く、平均年齢も40歳を超えています。
- ・YNさん 50歳を過ぎ、コロナに罹患してから、何をするにも気力がなく、階段の上り下りが、手の震えでうまくご飯を食べることができなかつたり、飲み込む力がなくなっていたりいままでとは違う様子が見られます。年明けには自宅の階段を降りることができず、支えていた母が転倒し頭をぶつけることができました。自宅へ帰るには10段以上ある階段を上らなければならず、現在安全に考慮し車いすを利用。また週末自宅には帰らずホームで暮らす。ホームでは湯船をまたぐことができず寒い時期は、シャワー浴だけになりました。ケース会議で検討しぼればれで入浴をすることになりました。「ぼればれのお風呂気持ちよかった？」と聞くと大きなはっきりした声で「はい！」と答えます。以前のようにすこし頑なに拒む・・・などの姿が見られるほど気力体力ともに戻ってきているように思います。ぼればれのようなゆっくりした日も少しなら、時には仕事に頑張ってみようかな？と思える、YNさんらしい生活リズムを考えていきたいと思います。
- ・IAさん(80歳)OMさん(75歳)をはじめとして、年齢を重ねてきたメンバーは今の状態を維持していくためには、高齢分野(介護保険サービス)や医療機関、そして急な家族の体調により、家庭だけでは支えられず、相談支援や居宅生活支援部との連携がより一層大事であるということを考えさせられた1年でした。作業所だけではないステージを利用し“豊かに老いる”を関係機関で検討して行きます。
- ・来年度それぞれメンバーも支える家族もまた一つ歳を取ります。障害実態の多様化、高齢化の課題と合わせてですが障害の重い人たちにとっての加齢や重症化については課題を整理していく必要があります。本人の願いを中心に他機関や家族との連携は重要となってきます。まさに障害のある人たちのあたりまえを地域でどう支えるか？が課題です。さらに本人をとりまく家族の実態にも、丁寧に目を向けておくことが大切です。障害のある我が子をささえる立場から、ご自身のささえが必要になってきた家族も少なくありません。そういった状況も、本人の将来に対する願いや思いも明らかにできる関係づくりや地域で支える仕組みを幅広いネットワークで構築していくことが、今後必要となっています。

職員集団について

- ・職員同士、日常のなかでもたくさん話をし、疑問や不安を出し合い、その都度検討することができました。
- ・OODA（オーダ）…日ごろからメンバーの様子を意識して観察し、グループ会議で報告し合い、その情報収集のなかでメンバーにとってより良い支援とは？どうしたらいいのかをCAP会議で状況判断、また職員会議も含めて方向性を決めてきました。その方向性をグループ会議のなかでも確認し合い実践を進めることができました。具体的にどうしていくのかは個々それぞれメンバーや環境で異なりますが、安心して安全により良い生活が送れることがメンバー全員の目的です。日々の実践の中や職員同士が、情報収集をすることで多面的にそのメンバーを捉え

ることができよりよい実践をすることができたのではないかと思います。職員同士がたくさん会話をするなかで、必要なことは注意や助言できる関係を作り上げていきたいと思えます。

- ・今年度も小磯さんを招いての学びの場、学習会を行いました。日々実践を行う中で、このメンバーにとって安心して過ごせるには？「なりたい自分」って？？を想像し、専門的な助言をもらうことで「なるほど」「それもそうやね」とまた違ったそのメンバーの見方をすることができました。また、日々実践の振り返りをすることができ、第三者からの助言を受けることで、「メンバーにとってはしんどいことやったんや」「しんどい想いをさせていたんや」と、確認し合い、“気づき”のきっかけともなりました。またケースを取りまとめること自体が学びの経験となり、実践を深める契機となりました。
- ・些細な出来事や雰囲気敏感なメンバーたちの多い第二だからこそ、事業所内のいい雰囲気を作っていきたくと思えます。その雰囲気を作るのは職員集団のつながりであり、より一層日々のコミュニケーションを大事に、メンバー、職員の一人一人の「なりたい自分」に寄り添える職員集団をめざします。

4 次年度への課題とそれに対する取り組むべき実践内容

この地域(宮前町)で開所以来 29 年が経過し、第二利用者の障害実態やニーズも多様化してきました。年齢層は 20 歳から 80 歳と幅広くなり、障害分野だけではなく、医療や高齢分野と他事業所を併用するメンバーが近年増えてきました。あわせて強度行動障害や重度知的障害の利用者のニーズはより専門性が求められます。

障害特性や年齢に応じた働き方や暮らし方のニーズも大きくひろがり、願いに沿った実践を進めていくうえで事業所として何ができるのか？ 本人が「こうなりたい！」と、望む生活を柱に仕事や活動を通じて、人や地域、社会と“つながる”ことを大きくふくらませ、社会人としてあたりまえに生きることをめざします。

「よしっ！できた！」「みんなと一緒になら！」と自信や手応えが実感できるよう、仕事を軸としながら安心した環境づくり、安定した日課や居場所の確保を進め、なりたい自分に 1 歩でも 2 歩でも近づけるよう挑める場面も整えていきます。積み重ねていく経験が本人にとって、豊かな生活の彩りや自信と手応えにできるような実践を推し進めます。また、生活と健康を整えていくことも重要です。しんどさをつくらない、安全に元気に暮らせるなど、体調への考慮を一層深めていきます。

それらを実践する職員集団は、“気づき”と“学び”を支援の柱とし、表出している現象だけにとらわれず内面を捉えて実践の方向や組み立てます。可能性の引き出しや課題解決に向けて力をつけていくことをめざし、引き続き、職員間の『ざっそう』の環境をつくり、CAP 会議を柱に『OODA (ウーダー)』で月 1 回の職員会議の充実に取り組みます。

※ざっそう：雑談・相談（積極的に雑談をしていざというときに相談しやすい環境）

亀岡福祉社会ビジョン 2025 の 4 年目でもある 2024 年度はいよいよビジョンの具体化に向け、これまで積み重ねてきた第二かめおか作業所での実践を未来へつづく一歩としながら、一人ひとりが人生の主人公となれるようビジョン事務局と連携していきます。